

番 号 : 131336

国 名 : フィリピン

担当部署 : 資金協力業務部実施監理第三課

案件名 : 「アンガット川灌漑用調整ダム改修計画」事後現状調査 (リスク評価/河川工学)

1. 担当業務、格付等

- (1) 担当業務 : リスク評価/河川工学
- (2) 格 付 : 2号
- (3) 業務の種類 : 調査団参团

2. 契約予定期間等

- (1) 全体期間 : 2014年3月上旬から2014年3月下旬まで
- (2) 業務M/M : 国内 0.40M/M、現地 0.53M/M、合計 0.93M/M
- (3) 業務日数 : 準備期間 5日 現地業務期間 16日 整理期間 3日

3. 簡易プロポーザル等提出部数、期限、方法

- (1) 簡易プロポーザル提出部数 : 1部
- (2) 見積書提出部数 : 1部
- (3) 提出期限 : 2月12日(12時まで)
- (4) 提出方法 : 専用アドレス (e-propo@jica.go.jp)への電子データの提出、
または調達部受付 (JICA本部1F) への書類の提出

※2013年10月2日以降の公示案件 (業務実施契約単独型のみ) より、電子媒体による簡易プロポーザルの提出を試行導入しています。提出方法等詳細についてはJICAホームページ (ホーム>JICAについて>調達情報>お知らせ) をご覧ください。

4. 簡易プロポーザル評価項目及び配点

- (1) 業務の実施方針等 :
 - ①業務実施の基本方針 16点
 - ②業務実施上のバックアップ体制等 4点
 - (2) 業務従事者の経験能力等 :
 - ①類似業務の経験 40点
 - ②対象国又は同類似地域での業務経験 8点
 - ③語学力 16点
 - ④その他学位、資格等 16点
- (計100点)

類似業務	河川/治水に係る各種調査
対象国/類似地域	フィリピン/全途上国
語学の種類	英語

5. 条件等

- (1) 参加資格のない社等 : 特になし
- (2) 必要予防接種 : なし

6. 業務の背景

マニラの北東約60kmに位置するアンガット川の河川水は、農業用灌漑、発電等に利用されている。アンガット・マーシム川灌漑システム (Angat-Maasim River Irrigation System: AMRIS) は1926年に建設され、フィリピンの灌漑システムの中で最も古く、また大規模な灌漑システムのひとつである。AMRISにおける水源はアンガット川及びマーシム川で、アンガット川からの取水にはアンガット川頭首工 (以下、「ブストスタム」) に対しては、過去二度の日本政府の無償資金協

力（詳細は、以下(注)を参照）によって部分的な改修が行われ、AMRIS 全体では 31,485ha（2010 年）への灌漑用水の供給を行ってきた。

しかしながら、AMRIS 灌漑施設は各所で老朽化が進んでおり、近年わが国の資金協力で改修された箇所、特にラバーダムについては経年劣化による損傷のリスクが懸念されている。

これを受け、本事後現状調査では、メーカーにより検討されてきたラバーダムの耐用年数について検証を行うとともに、ラバーダム損傷時に想定されるリスクについて評価を行い、国家灌漑庁（以下、「NIA」）をはじめとするフィリピン側関係機関に対し、その対策について提言を行うことを目的とする。

なお、本事後現況調査は 2 回に分けて実施し、第 1 次調査（2014 年 2 月 10 日～14 日に実施予定）にて、ラバーダムの耐用年数に関する検証（フィリピン側のラバーダム運用状況等の確認を含む）、損傷時に想定されるリスクの簡易評価を行い、第 2 次調査（本業務）において、第 1 次調査の結果を踏まえた詳細リスク評価を行い、その結果をもとに改善策等について、フィリピン側へ提言を行うことを目的とする。

（注）無償資金協力の概要

「アンガット川灌漑用調整ダム改修計画」

E/N 署名：1996 年度 供与限度額：16.56 億円

協力内容：既設セクターゲートの取替、土砂吐ゲート及び巻上げ機改修・取水エゲート及び巻上げ機改修、下流エプロンの改修、護岸工の改修、下流左岸護岸工の建設 等

「アンガット川灌漑用調整ダム護床改修計画」

E/N 署名：2001 年度 詳細設計を含む合計供与限度額：13.03 億円

協力内容：ダムにおける水叩き部分の改修、河床保護工、河川護岸工、維持管理用機材等

7. 業務の内容

本業務の業務従事者は、無償資金協力の仕組み及び手続きを十分に把握の上、調査団員として派遣される機構職員等と協議・調整しつつ、担当分野に係る調査（リスク評価/河川工学）のために必要な以下の調査を行う。また、本業務従事者は、報告書（案）全体の取りまとめに協力する。

具体的担当事項は次のとおり。

（1）国内準備期間（2014年3月上旬）

- ①本件調査の背景・内容を把握（関連報告書等の資料・情報の収集・分析）の上、現地調査で収集すべき情報を検討し、必要に応じ、フィリピン側関係機関に対する質問票（案）（英文）を作成する。
- ②第1次調査での簡易リスク評価を含む既存のリスク評価結果を検証する。
- ③リスク評価手法の説明を含む担当分野にかかる資料を準備し、対処方針会議等に参加する。

（2）現地派遣期間（2013年3月上中旬～3月下旬）

- ①当機構フィリピン事務所等との打合せに参加する。
- ②フィリピン側関係機関との協議及び現地調査に参加する。
- ③リスク評価に必要な情報・資料の収集及び現地調査により、以下の点について現状を把握し、課題を分析する。具体的な分析内容は以下のとおり。
 - ア) アンガット川の関連データ（地形、気象、水文等）
 - イ) 第1次調査で確認された損傷リスク影響地域を含めた下流域全域の詳細（居住及び立入状況、フェンス等立入規制の状況等）
 - ウ) 下流域全域の警報及び避難システム
- ④これまでのリスク評価及び③の結果を踏まえ、ラバーゲート損傷時のシミュレーション案を作成し、フィリピン側に説明する。
- ⑤④のシミュレーションに基づき、治水の観点から下流域全域の警報及び避難システムについての改善案について検討し、フィリピン側に説明する。
- ⑥フィリピン側関係機関と協力し、上記改善案について、ブラカン州等地方自治体等と意見

交換する。

⑦担当分野に係る現地調査結果を当機構フィリピン事務所等に報告する。

(3) 帰国後整理期間 (2014年3月下旬)

①帰国報告会、国内打合せに出席し、担当分野に係る調査結果を報告する。

②担当分野に係る事後現状調査報告書(案)を作成するとともに、報告書(案)全体の取りまとめに協力する。

8. 成果品等

本契約における成果品は以下のとおり。

(1) 事後現状調査報告書(案) (和文、英文要約)

なお、成果品は電子データをもって提出することとする。

9. 見積書作成に係る留意点

本公示の積算を行うにあたっては、「JICAコンサルタント等契約見積書作成ガイドライン」(<http://www.jica.go.jp/announce/manual/guideline/consultant/quotation.html>)を参照願います。留意点は以下のとおりです。

(1) 航空賃及び日当・宿泊料等

航空賃及び日当・宿泊料等は契約に含まず(見積書に計上して下さい)。

10. 特記事項

(1) 業務日程／執務環境

①現地業務日程

現地派遣期間は2014年3月上中旬から3月下旬を予定しています。

当機構の調査団員は本業務従事者と同時若しくは数日遅れて現地調査を開始し、本業務従事者より数日前に現地調査を終える予定です。すなわち、本業務従事者が単独で現地調査を行う期間がある可能性があります。

②現地での業務体制

本業務に係る調査団構成は、以下のとおりです。

ア) 総括 (JICA)

イ) リスク評価/河川工学 (コンサルタント)

③便宜供与内容

当機構フィリピン事務所による便宜供与事項は以下のとおりです。

ア) 空港送迎

あり

イ) 宿舍手配

あり

ウ) 車両借上げ

全行程に対する移動車両の提供 (ただし、アンガットでの滞在期間の車両借上げについては、フィリピン事務所が予約の上、臨時会計役の委嘱により、業務従事者が支払いを行うことを想定しています。)

エ) 通訳備上

なし

オ) 現地日程のアレンジ

当機構がアレンジします。

カ) 執務スペースの提供

なし

(2) 参考資料

本業務に関する以下の資料が、当機構図書館のウェブサイト (<http://libopac.jica.go.jp/>) で

公開されています。

- ・「アンガット川灌漑用調整ダム改修計画」基本設計報告書
- ・「アンガット川灌漑用調整ダム護床改修計画」基本設計報告書

(3) その他

- ①業務実施契約（単独型）については、単独（1名）の業務従事者の提案を求めている制度ですので、複数の業務従事者によるプロポーザルは無効とさせていただきます。